

◆ 今週のコメント

- マラリア(熱帯熱)の報告が1例(男, 40歳代)あり, 推定感染地域は西サハラ, ブルキナファソです。本年5例目で, 感染症法に基づく届出の対象となった平成11年(4月)以降の年間報告数(平成14年が4例, 平成11年, 12年, 13年, 15年, 19年が各2例)と比べて, 最も多くなっています。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数が3.25(130例)で, 先週から増加しています。5歳ごとの割合では, 0～4歳が53.8%(70例)と最も多く, 次いで5～9歳が24.6%(32例), 10～14歳が10.0%(13例)となっています。
- 伝染性紅斑の定点当たり報告数は, 0.33(13例)で, 第33週(8月16日～22日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は, 0.35(14例)で, 先週(0.15, 6例)に比べ急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 四類: マラリア(熱帯熱) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例 (第43週分)【1月以降の累積報告数 16例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.25	130
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	22
	③ 流行性耳下腺炎	0.43	17
	④ RSウイルス感染症	0.35	14
	④ 水痘	0.35	14
	④ 突発性発しん	0.35	14
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

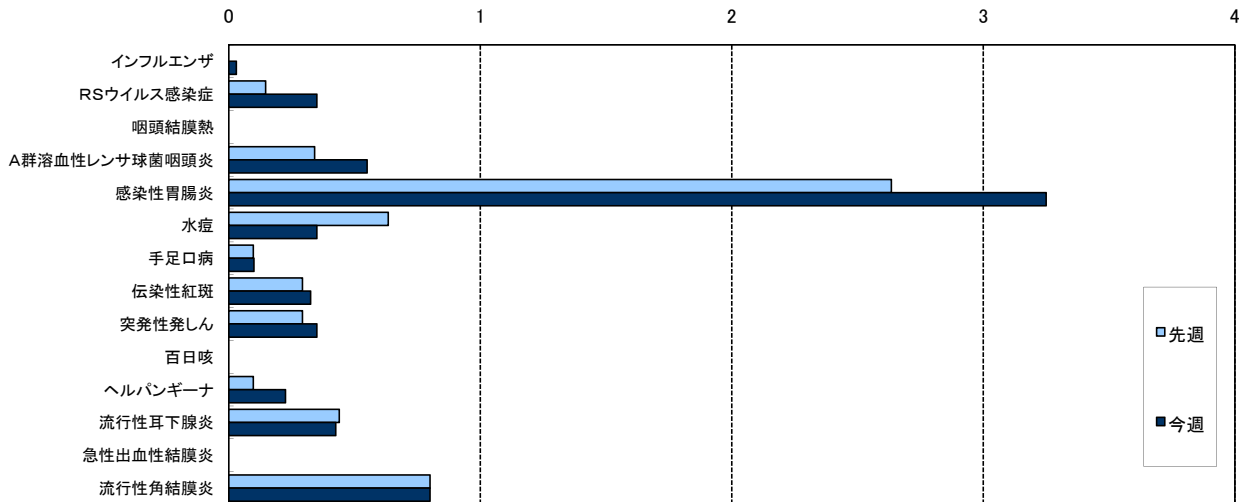
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成22年11月11日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

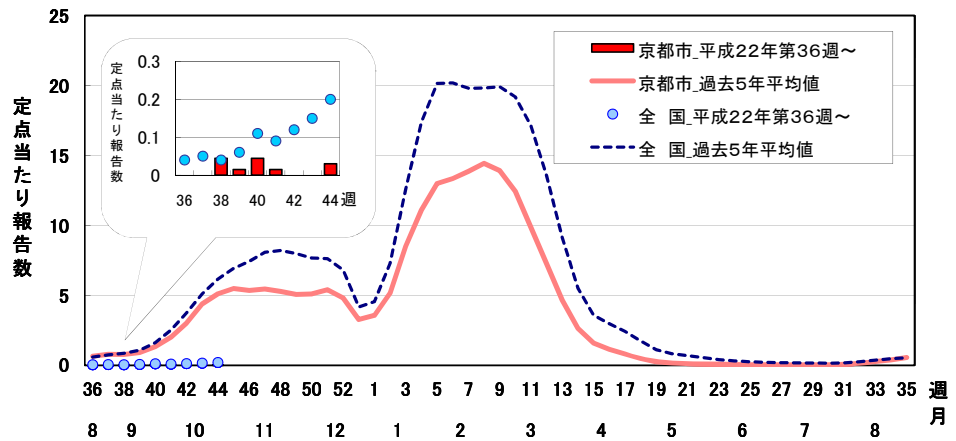
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第44週)と先週(第43週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

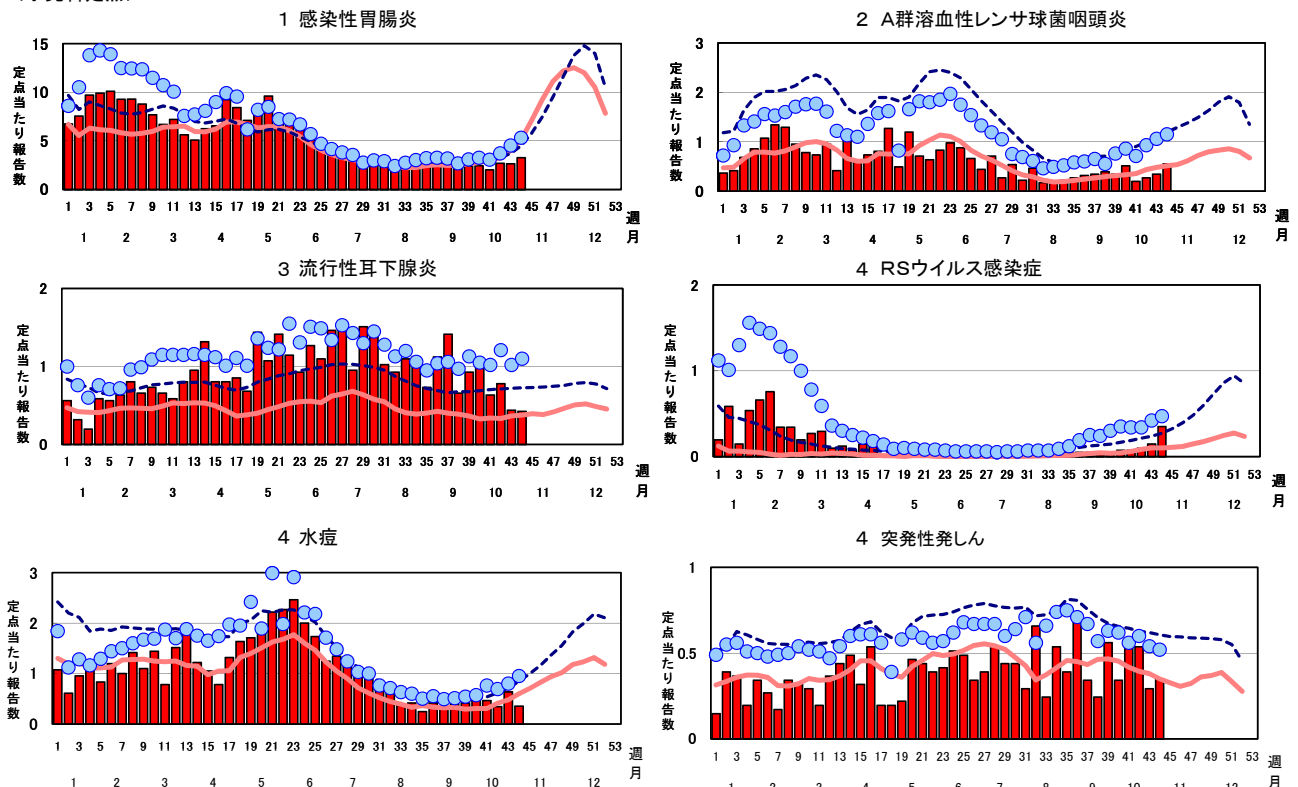
週	報告数(例)
第40週	3
第41週	1
第42週	0
第43週	0
第44週	2
累積報告数 (第36週以降)	10



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

Legend: 京都市_本年 (Red solid line), 京都市_過去5年平均値 (Red dashed line), 全国_本年 (Blue solid line), 全国_過去5年平均値 (Blue dashed line).



第44週(11月1日～11月7日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.35(14例)で、先週(0.15, 6例)に比べ急増し、過去5年平均値の3倍以上と、例年と比べても多くなっています。全国でも、過去5年平均値を上回る状態が継続しており、今後の動向に注意が必要です。

平成17年以降の定点当たり報告数をみると、11月後半から2月前半に流行のピークが見られます。

本疾患は、乳幼児期に重症化しやすく、特に5箇月以下では入院による治療が必要となる場合もあり、乳幼児期の下気道疾患(細気管支炎、肺炎等)による入院の原因となっています。今週報告のあった14例はすべて2歳以下で、5箇月以下が4例、6～11箇月が3例、1歳が4例、2歳が3例となっています。第34週から第44週までの累積報告数の年齢階級別割合をみると、1歳が40.0%(16例)と最も高く、1歳以下の占める割合は87.5%で、例年よりも高くなっています。また、5箇月以下の割合は、20.0%(8例)となっています。

京都市衛生環境研究所ホームページに、RSウイルス感染症についての情報を掲載しています。

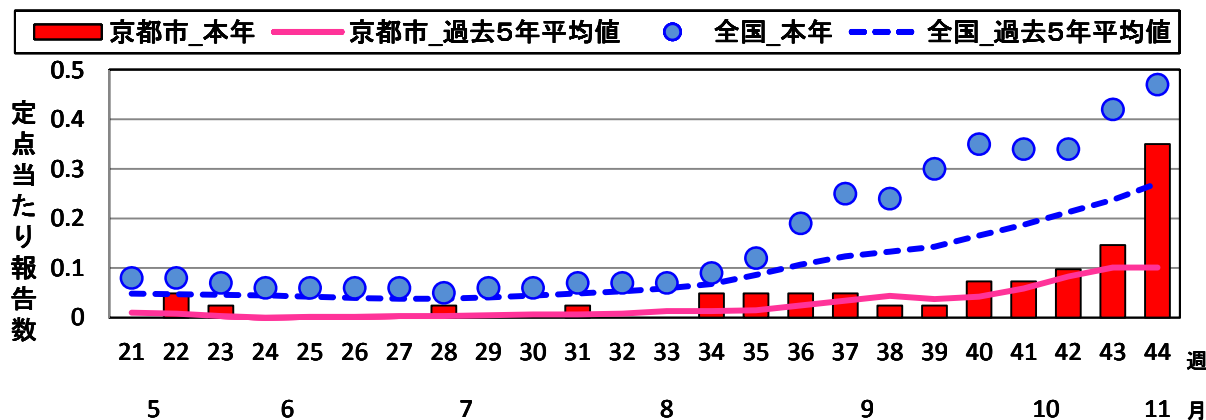
微生物部門ホームページ RSウイルス感染症について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>

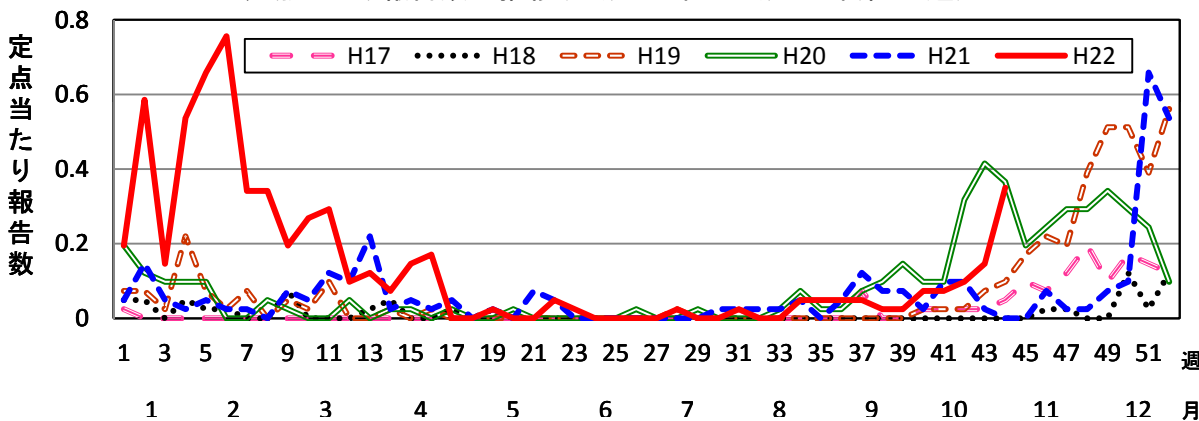
京都市感染症週報第10週・特集(RSウイルス感染症)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000074/74152/10-syuhp.pdf>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(第21週～第44週)



定点当たり報告数の推移(平成17年～平成22年第44週)



累積報告数の年齢階級別割合

